

幸せとは 喜怒哀楽の調和である

Well-being Encompasses
The Harmony of Joy, Anger, Sorrow, and Pleasure.



「幸せとは喜怒哀楽の調和である」この言葉は、ワタベヒツジさん描く4コマ漫画『幸せの重心』のコンセプトです。主人公は、ネガティブで卑屈なカメ・タナカと、いつも幸せそうに見えるウサギ・ヨシキ。正反対のサラリーマン2人が、さまざまな感情を味わいつくし「幸せの重心」を見つける物語です。『幸せの重心』は、石川善樹さん（ヨシキ）の言葉をヒントに描かれ、100話まで連載が続きました。漫画は、現代社会で焦りを感じるカメ・タナカが、ウサギ・ヨシキとの交流を通じて幸せをみつけていくストーリーです。私にとって、この漫画は複雑なことがなにもない純粋な楽しさを提供してくれました。軽やかで愉快的な物語。それに、ウサギ・ヨシキの顔はウサギでありながら石川さんに実に似ています。この漫画を通じて石川さんとワタベさんを認識し、ウサギ・ヨシキとカメ・タナカは私にとって大切なココロの中のお友だちです。

幸福とは、決して苦しまないことではありません。幸福とは、苦しみを経験することなくしては得られません。たとえば、石川さんは被爆

3世としての想いや、勉強、考え方のコンプレックスから脱し、人生の逆境を乗り越えました。石川さんは、暗い感情を避けません。そのネガティブ感情は、みる人の過去の体験と共鳴し感情を浄化します。実際、『幸せの重心』では石川さんが卑屈なカメ・タナカを肯定し、「卑屈には価値があるってことを世の中の人に知ってもらいましょう」という第二のコンセプトも描かれます。これは、大半の人は物語がポジティブ感情をもたらすかどうかを気にかけていない、ということです。この漫画のゴールは小さな共感を味わうこと、つまり「ウサギヨシキの一言にはっとする」「カメタナカの気持ち分かる」です。

漫画『幸せの重心』はどんな結末になったか。カメ・タナカとウサギ・ヨシキの幸せの重心とは？この漫画のクライマックスは、仕事に疲れたり落ちこんだりしながら、ウサギ・ヨシキとの会話で何かを感じ、最善の自分を見出す道中のカメ・タナカが描かれます。そして、以下に続くのは、石川さんの感情の数々です。あなたは、どのような自分を見出しますか。





第四話 正しいとムカツク？



『幸せの重心上下』原案：石川善樹・漫画：ワタベヒツジ著（コルクスタジオ）Kindle 版。
 幸せは喜怒哀楽の調和にある—そんなコンセプトを描いた漫画です。ネガティブで卑屈なカメのタナカと、いつもなんだか幸せそうに見えるウサギのヨシキの対照的なキャラクターが登場し、仕事や感情に直面しながら幸せの重心を見つけるストーリー。この作品は、漫画家ワタベさんが石川さんの「幸せとは喜怒哀楽の調和である」という言葉をヒントに創作したもので100話にわたり連載されました（2020年8月31日～2022年9月6日）。

ワタベ・ヒツジ
 1991年東京生まれ。東京藝術大学デザイン科出身。
 中学時代『スラムダンク』にハマリ、枕元に常備し、毎晩のように山王戦を読む。キャラクターが生きてると信じ込む。大学時代、デザイナーを目指していたが、卒業と同時にマンガ家を目指し始める。美術予備校講師をやりながら、マンガを描く。人の心の歪みが見えた時に、愛おしさを感じる。「歪み」が「やさしさ」によって肯定される瞬間を描きたい。フツと笑えるものから、シリアスなものまで。ハッピーエンドが好き。好きなジャンルはヒューマンドラマ・サスペンス・コメディ。好きな食べ物はベイビーバックリブとナチョスとハンバーガー。